

# 三水会会報

北里大学水産学部  
同窓会会報  
第 27 号

平成6年3月1日発行

編集者 大野良樹

発行 三水会(北里大学  
水産学部同窓会)

事務局 〒246 神奈川県横浜市瀬  
谷区瀬谷5-22-1石井方  
☎ 045-303-3135

振替口座 第一勧業銀行  
大手町支店  
008-1182388

## 「魚類の脳下垂体ホルモンの研究 —国際研究センターをめざして—

(水産利用学講座教授 川内 浩司)

職場紹介① 水産庁北海道さけ・ますふ化場に勤務して(15A・青木 滋)

② 水産物輸入に取り組んで(16A・植村 邦彦)

「三水会セミナーに参加して」(5F・高橋 明義)

「改革をめざした第21回漁火祭」(漁火祭実行委員長 織田 武志)

クラブの近況「バスケットボール愛好会」(水産学部三年 飯塚 恵子)

全日本大学釣り選手権大会で個人優勝

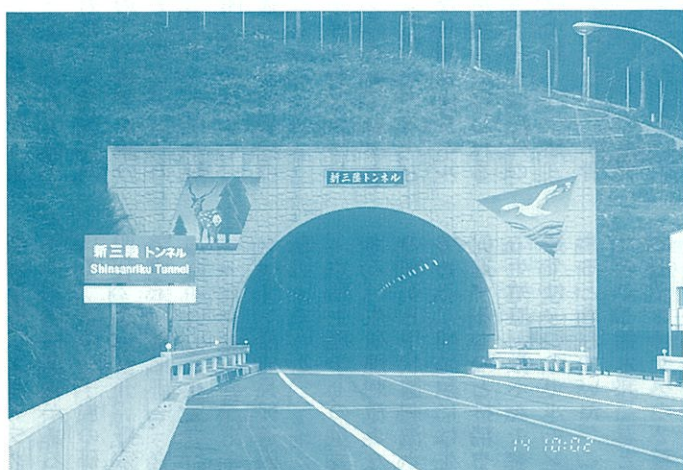
## Information

※平成6年度三水会総会の開催について

※from 会員 水族病理学研究室OB会の開催について

※関東地区親睦会の開催について

※from 三陸町“サンフルギフト”のご案内



昨年3月完成した新三陸トンネル

林道から越喜来漁港を臨む



# 「魚類の脳下垂体ホルモンの研究」

## 国際研究センターをめざして

水産利用学講座教授 川内 浩司

1974年6月、三陸に赴任して  
ヒトから魚に乗り換えて約20年、水  
棲動物の脳下垂体ホルモンの研究に  
専念した。その間の研究成果に対し  
国際比較内分泌学会議からシャラー  
バーグマン賞を頂いた(93年5月)。  
まことに嬉しい限りである。170名の  
同窓生の諸君と国内外の共同研究者  
にお礼を申し上げたい。

今、友人たちは「あいつは鯨を魚  
だと思っていたのではないか？」と  
冷やかしているが、最初は日本水産  
から頂いたナガスクジラとマッコウ



クジラの脳下垂体のホルモンを研究  
した。坪川允君はナガスクジラの成  
長ホルモンとプロラクチンの研究で  
水産学博士第1号となった。彼は渡  
米し、インシュリン・リセプターの  
同定に重要な役割を果たした。

魚では、地の利を活かして津軽石  
川のサケを材料とした。宮古漁協と  
鮭鱒繁殖組合の方々には大変お世話  
になった。安達泰史君がメラノトロ  
ピンを同定して修士となり、高橋明  
義君はエンドルフィンの研究で博士  
となった。

83年、サケの視床下部から新しい  
ホルモン(メラニン凝集ホルモン)  
を発見し、ネイチャーに発表した。  
このホルモンは脊椎動物だけではなく  
無脊椎動物の脳にも存在する神経  
ホルモンであること、ヒトのホルモ  
ンはサケと大変よく似ていることな  
どが明らかになった。今や、脳の機  
能を研究する為の有用な物質として  
注目されている。この研究は、81年  
12月、香港で開催された国際比較内  
分泌学会議で、パース大学のベ-

カー博士との出会いから始った。川  
添一郎君はこの研究をまとめ博士  
となり、岸田光代君は、卒業後留学  
してベーカー博士の下で研究を続け  
た。さらにロードアイランド大学の  
大学院に入学、スペッカー教授の指  
導により93年5月Ph.Dとなった。  
我々はこの経験を通して共同研究の  
大切さを認識したのである。

85年12月、協和発酵工業と共同し  
てサケ成長ホルモンの遺伝子組換え  
に成功した。この研究がモデルと  
なって産業上重要な魚類の成長ホル  
モン遺伝子の研究が盛んに行われる  
ようになった。一方、我々は海外の  
研究者と共同し、爬虫類、両生類、  
硬骨魚類(肺魚類、軟骨魚類、全骨  
類)、軟骨魚類など系統分類上重要  
な動物に研究対象を広げた。その中  
にベルゲン大学から助手として赴任  
してきたウインド・ウイバー博士が  
いた。彼女は大西洋タラから新しい  
ホルモン、ソマトラクチンを発見し  
た。医学部小野雅夫先生がその遺伝  
子を同定し、成長ホルモン/プロラ  
クチン分子族の新しいメンバーであ  
ることを示した。これらのホルモン  
の機能の研究は、東大海洋研の平野  
哲也教授と共同して進めた。成長ホ  
ルモンは海水適応、プロラクチンは

淡水適応、ソマトラクチンはカルシ  
ウム代謝に関係があることが分つて  
いる。この分子族の研究では、安田  
明和、森山俊介、野宗豊彦君が水産  
学博士、阿部研一、宮島賢市、渡辺  
加奈子さんが修士として巣立って  
行った。森山君はシアトルでイン  
シュリン様成長促進因子研究の先陣  
を切っている。

魚類生理学上の重要な貢献はまだ  
ある。生殖腺刺激ホルモンの二元性  
の証明と甲状腺刺激ホルモンの同定  
である。哺乳類には生殖腺の発達を  
促進するものと排精や排卵を促進す  
る生殖腺刺激ホルモンがあるが、魚  
類では一つのホルモンが全てを調節  
するとされていた。この定説を覆し  
たのが、鈴木邦昌君と伊東泰通君で  
ある。シロサケの2種類のホルモン  
を同定し、両君共、博士となった。  
また、ワシントン大学から留学して  
きたスワンソン博士がギンザケで、  
伊東君がカツオで、マルハ中央研究  
所の川添君がマグロ、その普遍性を  
支持する証拠を次々と出してくれ、  
広く認められるところとなった。一  
方、小出先生は衛生学部の柴忠義研  
究室との共同研究によって甲状腺刺  
激ホルモンを同定した。

92年9月に白金本部と三陸で国際

シンポジウムを開催して、これまでの研究の進歩を総括し、将来の研究の方向を討議した。以上、我々の研究室は、国際的共同研究組織の下に同窓生を中核として、下等脊椎動物の脳下垂体ホルモンに関する重要な情報の発信源、すなわち国際研究センターとしての役割を果たしてきた。

シャラー・バーグマン賞と共に嬉しいことは、多くの卒業生諸君が、企業で、あるいは研究者として世界的に活躍していることである。

最後に、三水会での講演の機会を設けて下さいましたこと、ご多忙中、遠方より多数お集まり下さいましたことを心から御礼申し上げます。

## 〈職場紹介〉

### 水産庁北海道さけ・ますふ化場に勤務して

15 A 青木 滋

北海道の魚といえたいいの人がサケと答えるほど、サケは北海道の名物、特産品となっています。それが証拠に、12月までに本邦系サケの沿岸来游数全体の実に66・2%



当たる、3,938万1千尾ものサケが北海道に帰ってきました。ちなみに全国第2位をはこる岩手県の来游数は1,460万7千尾でした。それはそうと、ご存じのとおり現在そのほとんどのサケが人工ふ化放流によって「作られて」います。ここで北海道におけるサケマス増殖事業の歴史をひもひもと追ってみますとその歴史は古く、明治21年千歳に北海道庁所管の中央ふ化場の創設をもって始まります。その後、昭和27年に農林省所管水産庁北海道さけ・ますふ化場が設立されると、昭和46年から58年にかけて、国営事業の補完と協力ということで道営、民営のふ化場が



順次建設されたそうです。ここで北海道にふ化放流施設は一体どれくらいあるのだろうか…と調べてみると、○×漁業組合や○×事業団体、○×協会は市町村などが管理する大小様々な民営のふ化場が129か所、道営のふ化場が6か所、そして国営のふ化場が31か所と計166か所もあることがわかりました。そして水産庁北海道さけ・ますふ化場はこれらの先頭に立ち、種卵・種苗の供給と技術指導の役割を担っている…のです。

水産庁北海道サケ・マスふ化場には事業場と呼ばれる国営のふ化場が全道に31か所あり、サケやサクラマ

ス、カラフトマス、及びベニ（ヒメ）マスのふ化放流を行っています。その他に北見、根室、十勝、千歳、渡島の各地区に支場がありますが、これらは各地区のふ化場をとりまとめる役割をしています。さらに札幌の中の島に本場があり、5支場31事業場の管理をおこなっています。と、このように書くときに大規模な組織に思えるでしょうが、実際には職員全員合わせても200人にみえない小さな組織です。ところで、皆さんはふ化場の職員というと、採卵や稚魚の飼育に追われたり、いろいろな調査や研究をしたりといった姿を思い浮かべるでしょうが、職員全員がそういった仕事をしているわけではありません。それどころかふ化事業に直接関わっている職員の方がむしろ少ないといったほうがよいでしょう。それについて少し説明しますと、現在の北海道さけますふ化場の人員は174名なのですが、そのうちの12名だけが研究職で、残りは一般職です。また40名は事務職として組織運営のための仕事についていますから、彼らを除いた134名がふ化事業に関与している人たちになります。と、いってもそのうちの半分は、本場や支場でふ化事業の計画やら「現場」から送

られてくるいろいろなデータのとりまどめやらといったデスクワークが主で、直接ふ化事業にたずさわっている人となると事業場に配属された70名程度になってしまいます。事業場は31か所ありますからひとつの事業場には2名程度の職員が配属されることとなります。

自分はその数少ないなかの一人として平成2年に利別事業場に赴任しました。職員は自分と事業場長の2人だけですが、それまでは職員とい

## 水産物輸入に取り組んで

自分の勤務しているトーマン水産株式会社は、輸入水産物を販売している会社です。本社は、中央区銀座にあり墨田区に工場、大阪に支店があります。会社が、築地の市場に近いことから、仕事の面や買物などで役立っています。

現在、北里大学の卒業生は、江成良治（7A）、小笠原英貞（12F）、杉浦賢一（14A）と私を含めて4人おります。

職場紹介ということなので、内容

えば場長1人だけだったそうです。

この事業場の担当する河川は後志利別川と違って、道内でもあまり有名ではありませんが、平成3年には河川湖上尾数11万尾を越えたほど、多くのサケが湖上する河川です。このサケの捕獲および採卵は漁業協同組合に一任されており、我々ふ化場の職員の仕事ではありません。とはいうものの、実際には捕獲場の人夫さん達と一緒に「水遊び」に興じているのが本当ですが……

16 A 植村 邦彦

を具体的に説明したいと思います。

私は営業二課に勤務しており、主に冷凍エビを中心に販売しており、販売先は、スーパー、市場、問屋などです。築地の回りの水産会社には、水産学部の卒業生も多く、先輩、後輩とは知らずに商売していた時もあります。輸入水産物を扱っているの海外へ出張する機会も多く、主に行く所はアラスカ、カナダ、ノルウェー、東南アジアなどです。課によって行く所が違います。どの課

北海道の短い夏が終り赤とんぼが飛び交う秋の初め、オホーツクや道東方面からサケ湖上のニュースが届きはじめるころになると、利別川河川敷にある捕獲場ではサケを迎える準備が始まります。そして続々と湖上してくるサケに追いたてられるように始まるふ化場の「現場」の仕事は、北海道の寒さも和らぐ春の初め体長3cmほどに育った小さな稚魚たちを大海へと送り出してしまいうまで続きます。



左から江成、植村、杉浦、小笠原

でも共通することは、人里はなれた所に行くことです。海外出張というとかっこいいと思われがちですが、実際は、船に何日も乗ったり、一日

中工場が加工指導に当たったりと、つらい面も多いのですが、普通の海外旅行は行けない所が多く、色々な経験をみんなできています。

私も昨年の九月にフィリピンにエビの加工指導に行ってきました。四日間でしたが、初めての海外でしたので不安はありましたが何とか無事に帰ってきました。短い期間でしたが、空港で金をせびられたり、ストリートチルドレンに囲まれたり、ホテルに閉込められたり、いろいろなことがありました。一人で加工指導をしなくてはならないので、辞書を片手に身振り手振りで指導をしましたが、なかなか分かってもらえず苦労しました。

今後、国内の水産資源の減少などにより、ますます海外からの輸入に頼らなければならぬ状況になっていくと思います。そして、それを担っていくには、物を見る確かな目、語学力、どんな所にも行って仕事をしして無事に帰って来ることのできる、体力、精神力が必要になってくると思います。

まだまだ未熟な私ですが、これからも頑張っていきたいと思えます。皆さんも体には気をつけて頑張ってください。

## 三水会セミナーに参加して

講演会ならびに祝賀会参加者諸兄への御礼にかえて

水産利用学講座講師 5F 高橋 明義

四年に一度開かれる国際比較内分泌学界には、シャラー・バーグマン賞とピックフォード賞の二つの顕賞がある。表彰人数は、前者が一名であり、後者が二名である。従って、前者の格が高い。過去、ピックフォード賞は、日本人研究者も何度か授賞している。東京大学や基礎生物学研究所などの世界的に有名な研究者である。

川内先生は、日本人で初めてシャラー・バーグマン賞を授賞した。私学の、しかも日本のチベットといわれていた(る)三陸の、本学部の教員であることに価値がある。決して十分とはいえない研究環境下で、三陸を魚類内分泌学の、世界の中心地に築きあげたからだ。

毎年四月、水産学会の会期中に研究室の同窓会を開いている。昨年は、その席で本賞の授賞決定が伝えられた。授賞式は五月に予定されていた。研究室主催の祝賀会の日取りを思案していた時に、折よく長屋会長から川内先生へ、十月の三水会セミナーでの講演依頼があった。これを機会に同窓生を集めることにした。

講演会場は、白金キャンパスの北里本館二階会議室に設けられた。平成四年の秋に、川内先生が主催した国際シンポジウムと同じ会場だったお目出たいことも手伝ったため、卒業以来始めてみる懐かしい顔がみられた。遠方からの参加者も多数あつ

た。加えて、当研究室と交流のある企業研究所やメーカーからの参加もあった。

一時間半ほどの講演では、当研究室が載った新聞記事を中心とする、研究の足跡が語られた。国内をはじめとする、各国に広がる共同研究者の数の多さには、感嘆の声があがった。ちなみに、トロントでの授賞講演の時には、会場に同様な反応がみられた。出席した各人の貢献にも多く触れた身近な話題が多く、皆熱心

## 「改革をめざした第二一回漁火祭」

去る十月一六、一七日の両日、天候が心配された中、恒例の漁火祭が開催されました。漁火祭は水産学部開設以来、二一回続けられています。が、二一年間の伝統や重みというものが体育会の大漁踊り以外感じられず、ただ回を重ねてきたように思われました。このようなことから、今後の漁火祭のことを考え、改革を目指し、実行委員一丸となって準備を進めてきました。

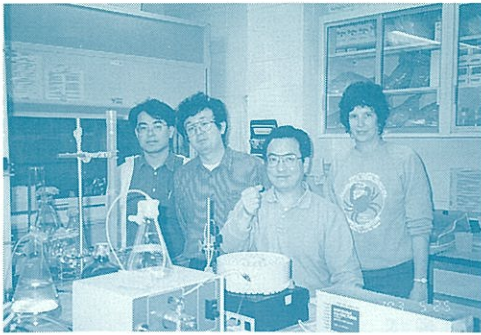
当日の主な催しとしては、一日目

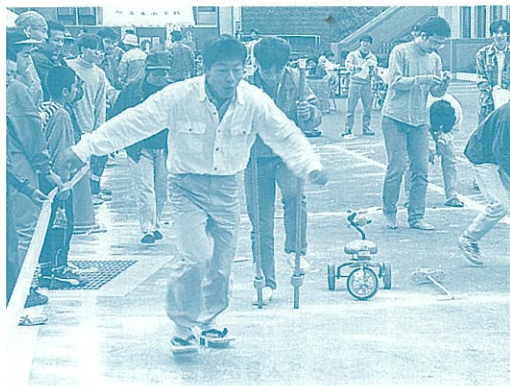
に聞き入りスライドを見つめていた。講演会のパーティー終了後に二次会を開き、研究室の同窓生たちでお祝をした。在学生の御尊父様の紹介で東麻布の、バイオリンと声楽のある、雰囲気の良い小さなレストランを会場に選んだ。ドイツ風の小料理を囲みつつ、伴奏に合わせて八曲ほどの合唱もあった。愉快なひとときであり、一番賑やかなのは川内先生だった。ところが本人は半分記憶がないという。

漁火祭実行委員長 織田 武志



右から2人目が筆者





## バスケットボール愛好会

三年 飯塚 恵子

が大漁踊り、ちびっこまつり、お菓子釣り、金魚すくい、カラオケ、二日目がバザー、宝探し、食べるマッチ、自転車レース、軽音楽コンサート等、それぞれ趣向を凝らしました中でもちびっこまつりやカラオケ等は地元からの来場者を増やし、交流を深めることを目的として、地元小学生を全員招待して遊んでもらったり、地元のカラオケクラブとの対戦という形式を取り入れ、大変盛り上がったものになりました。

また、各部活団体の展示や模擬店も、それぞれの特色がひとつひとつ

表われており、参加していただいた方々も満足していただけたと思います。

今回の漁火祭は、地元からの参加者が多く、全体的に活気があり充実したものとなったと思います。しかし、依然として一般学生の参加が多かったとはいえ、来年への課題となりました。将来を見据えて、新しいことに果敢に挑戦していく漁火祭になって欲しいと思います。

最後になりましたが、三水会をはじめ漁火祭に多大なご協力を賜りました皆様に厚くお礼申しあげます。

した。一泊二日という厳しい日程で行われたので、着いたその日に合同練習、そして夜は親睦のためのコンパがありました。次の日の試合は、二日酔いのため顔色の悪い人が数名おりましたが練習には一生懸命でした。そのあと三陸まで運転して帰ったので、居眠り運転が心配でしたが、全員無事に着きました。

六月の下旬には東北地区大学総合体育大会（インカレ）があります。これには十和田の方々と合同で出場しました。一回戦は東北生活文化大学とあたり、一一九―四三という大差で勝ちましたが、二回戦は秋田経済法科大学とあたり、負けてしまいました。



七月中旬には、三陸町の方々と大学のクラブから二・三名が混合で岩手県民体育大会に参加します。毎年テスト期間と重なり、学生には少しつらい季節です。去年は、雫石で試合が行われました。三陸町チームは、新しいユニフォームを作ったりやる気に溢れ、そのため試合も三回戦まで進出することとなりました。二回戦ではフリースロー一本が試合を左右するという激しい戦いでした。すばらしい試合に、学生も三陸町の方も一緒に喜びました。

今回、バスケットボール愛好会の紹介をさせて頂きます。マネージャーの飯塚です。私はマネージャーを始め二年になります。今が一番人数が多く、四年生が八人、三年生が五人、二年生が十六人（女子六名）です。女子のプレイヤーが入ってからは、練習風景も今までと違って華やかな感じがします。

去年の活動は、まず五月の下旬に

岩手県下一般バスケットボール選手権に出場しました。相手は久慈クラブでしたが、残念ながら負けました。このときは、盛岡までの遠征で、二年生にとっては初めての遠征となり、迷子になる車がでたり冷麺を初めて味わうなど、想い出深いものとなりました。

六月の中旬には青森県十和田市にある獣医畜産学部と二部戦を行います。

前期の部活納めに、パーベキューを浪板海外で行いました。酔って、堤防から飛びこむ人や、つきおとす人、海はまだ冷たかったのに皆泳いでいました。(次の日風邪をひいている人もいましたけど。)卒業なさった先輩方でも、こういう思い出をおもちの方はたくさんいらっしゃると思います。懐しく思われるのではないのでしょうか。

学園祭では豚汁・焼そばを売り、十和田の方もいらしたので、バスケット部はとてぎやかな模擬店となりました。後夜祭では女装コンクールに二名出場し、女子部員がメイクを担当しました。おしくも入賞にはな



りませんでした。バスケット以外のことも、皆で力をあわせてやっています。

十一月には相模原への遠征です。獣医畜産学部、水産学部、衛生学部での三部戦を行います。去年は、女子が五人ぎりぎりです。健康のためという入部でしたので、試合は辛そうでしたが頑張りました。

残る試合は気仙リーグのみです。これは今年の一月二十三日に行われます。四年生の方にはこれが最後の試合となりますので、皆で力を合わせて、ぜひ勝ちたいと思います。

次期主将は、バスケット部の愛好会から同好会への昇格をめざし、頑張っています。ここ三陸では、学生が遊ぶような場所はあまりありません。そのためクラブ活動にも力が入り、先輩・後輩の仲も深まります。これで、バスケット部にもOB会があれば卒業なさった先輩方とも連絡がとりやすくなるのですが、残念ながら今はありません。

これからも、私達バスケットボール部は自然に恵まれた三陸の地で、皆で楽しくやっていきたいと思えます。先輩方もどうぞ応援して下さい。

## 全日本大学釣り選手権大会で

### 個人優勝

増殖学科3年・羽根田努君

昨年10月16、17の両日、和歌山県の合川ダムで開かれた、第7回全日本大学釣り選手権大会のルー・フライフィッシングの部において増殖学科3年の羽根田努君が優勝した。

大会は、北は北海道大学から南は琉球大学まで59校、69名が参加して投げ釣り、磯釣り、スポーツキャスト、ティンクの4部門で争われたが、団体戦総合では5位入賞を果たした。

この大会では、平成2年に総合優勝している。



## 編集後記

2月12日未明から降り続いた雪で東京は23cmの積雪となった。これは69年3月12日以来25年ぶりの大雪だったそうである。25年は四分の一世紀。大変長い時間ではあるが、ふとその25年前の大雪の情景が思い出されると時間は10年単位でタイムスリップする。一期生が三陸を初めて訪れたのが73年の3月、あれから21年が経った。時々、三陸にお邪魔するが、嬉しいのは、ほとんどのものが変わっていないことである。大船渡を過ぎて三陸峠に入ると、「帰ってきたなあ」と思うと同時に、時間は21年前に逆戻りし、浦浜に着く頃には学生時代の自分になっている。何とも不思議な感覚である。しかし、三陸にも変化は起こっている。昨年3月、三陸峠にトンネルが通ったのである。冬場は楽になっただろうなあと思うと同時に、ちょっとさびしい気がするの私だけだろうか。最後に悲しいお知らせがあります。三陸研修所の運営等で大変お世話になった、掛川法泉さんが1月23日に亡くなられました。ご冥福をお祈りいたします。

## From 事務局

### 平成6年度総会の開催について

下記により平成6年度総会を開催いたします（会員は傍聴できます）。

〈開催日時〉平成6年5月15日(日) 11:00～

〈開催場所〉北里大学薬学部E号館8階 802会議室（白金校舎内）

〈協議事項〉平成5年度事業報告・決算、平成6年度事業計画・予算、代議員・役員の選任、その他

### 関東地区会員親睦会のお知らせ

三水会では毎年、関東地区の会員とご家族を主な対象とした親睦会を開催しておりますが、今年は、「す立て遊び」の企画で千葉県富津市において開催いたします。ご家族を含め、多数の方々の参加をお待ちしております。

参加を希望される方は、会員名、卒業年、住所、電話番号、参加者数（大人・子供別）を明記し、郵送またはFAXにて6月30日までに事務局あてお申込み下さい。参加希望者には地図等詳しいご案内を差しあげます。

なお、船の関係から人数制限がございますので先着順とさせていただきます。

〈開催日時〉平成6年8月6日（土）（午前8時現地集合）

〈集合場所〉「静養園」千葉県富津市大堀

〈参加費〉大人4,000円 子供2,000円（小学生以上）

◆《三水会事務局》 〒246 横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1 TEL・FAX 045-303-3135

## From 会員

### 水族病理学研究室OB会開催のお知らせ

水族病理学研究室OB会を、小林先生、厚田先生、河原先生をお迎えして開催いたしますので、OBの皆様はお誘い合わせのうえ是非ともご参加ください。なお、新卒の皆様、隠れ病理OBの方は特に歓迎します。

〈日時〉4月2日(土) 17:00～20:00

〈場所〉北里本館1階職員食堂（白金校舎・港区白金5-9-1）〈会費〉5千円

お申込み、お問い合わせは、3A・長谷川一敏（TEL 0554-43-1014）までお願いします。

## From 三陸町

### “サンフルギフト”のご案内

毎号ご好評を得ております三陸の味「サンフルギフト」を、三陸町の第3セクター「三陸町ふるさと振興株式会社（愛称＝サンフル）」が三水会会員の皆さんにお届けします。鮭、ホタテ、ワカメ、鹿肉等取り揃えておりますので、ギフトに、また、ご自宅用には是非お申込みください。下記宛お申し込みいただければ、詳しいご案内を差し上げます（FAXも可）。

◆問合せ先：「三陸町ふるさと振興株式会社」 気仙郡三陸町越喜来字所通21-18

TEL 0192-44-3241 FAX 0192-44-2883